

2) やんばる環境学習

仲松由美子¹・国広潮里¹

キーワード：学校教育 総合的な学習 通年学習 出前授業 地域連携 普及啓発

1. はじめに

学校教育と連携した普及啓発事業の確立は、そこに通う児童生徒の環境保全意識の向上を図る上で重要な要素の一つである。当財団では、沖縄県内の児童生徒の地域環境への興味関心や環境保全への意識向上を図るため、平成26年度よりやんばる環境学習を展開している。

本事業では、県内北部地域の小学校や教育委員会等と連携し年に3回以上の学習を継続する「通年学習プログラム」および1～2回完結型の「短期学習プログラム（出前授業）」を、県内各地の学校を対象に展開した。

また、地域の動植物や自然環境等について調査し、その成果を活かしたプログラムを検討した。

2. 実施結果

1) 通年学習プログラム

名護市内2校、本部町内1校において通年学習を展開した。主に総合的な学習の時間を利用して行い、適宜、理科・国語などの単元にも組み込んだ。地域の動植物の生態や自然環境と併せ、地域の農産業や文化にも関連した学習構成とし、当財団職員による解説や野外活動等を通じた学習を行った。

(1) ウミガメから学ぶ環境学習

ア) 名護市立小中一貫教育校 緑風学園

平成26年度に連携を開始した緑風学園では、複数学年にわたる学習体制が確立している。実施場所は緑風学園、美ら島自然学校、学区内の河川や海岸等であった。学習は、昨年度に引き続き3年生の「ウミガメ」、4年生「川の生き物と環境」、5年生「地域の食」と地域の環境や文化を体系的に学ぶことを意識した学習展開を行った。学習成果として、各学年ともに緑風ふるさと学習発表会において約一年学んだ知識を新聞や解説パネル形式でおこなった（写真-1）。さらに、小学3年生では、海洋博公園において本部町内小学校（瀬底小学校、上本部学園）とウミガメ合同発表会を実施した（写真-2）。成果物として、一部は美ら島自然学校にて展示中、海洋博公園（ウミガメ館内）でも展示を予定している。



写真-1 緑風ふるさと学習発表会（4年生）



写真-2 ウミガメから学ぶ環境学習合同発表会

イ) 名護市立名護小学校

名護小学校では、3年生向けに毎年5回の授業を実施している。授業内容は、①イノー（サンゴ礁で囲まれた浅瀬）に棲む生きものの話、②イノーの生きもの観察会（備瀬海岸）、③ウミガメの基本的な話、④ウミガメの観察（美ら島自然学校）、⑤ウミガメと環境の話の予定していたが、学校側の都合により今年度は②のイノー実施がなかった。④のウミガメ観察は今年度初めての試みとして、美ら島自然学校にて実施した（写真-3）。



写真-3 美ら島自然学校でのウミガメ観察

ウ) 本部町立上本部学園

海洋博公園を活用した2学年にわたる通年学習として、上本部学園内および海洋博公園内各施設で実施した。学習構成は、既に海獣課と連携して実施している3年生の「ウミガメから学ぶ環境学習」を基本とし、海から川、人の暮らしを連動させることを意識づけした。4年生では「地域の農業と自然」をテーマに海洋博公園内（ハーブ見本区横の畑）を実習地として活用した。今年度は学校および本部町教育委員会との協議で、3種類の野菜の植え付け体験を実施した。その中で、島野菜と一般に普及している種との比較をし、品種改良したものとそうでないものの生育比較を実施した。植え付け種はネギ（もとぶ香りネギ/九条ネギ）、ニンジン（島ニンジン/沖縄紅人参）、ダイコン（屋部ダイコン/青首ダイコン）とし、特にダイコンでは葉の大きさや形状の違い、害虫の有無などの違いが顕著に現れ、児童からは「品種改良していない島野菜の栽培はとても大変ということが分かった」などの声があった（写真-4）。



写真-4 島野菜栽培比較（4年生）

2) 短期学習プログラム（出前授業）

地域の環境や動植物および文化に対する興味関心を引き出すことを目的に、1~2回完結型の短期学習プログラム（出前授業）を、県内の小中学校および高等学校を対象に、総合的学習の時間の他、国語や理科の授業と関連づけた内容で構成した。令和6年度は県内25校から依頼を受けた。学習テーマはウミガメの生態を中心に、イノリの生きものや有孔虫などの身近に生息するものから、地域自然を活用した蝶の観察会、海洋博公園で働く職員の職業講話等があった（写真-5）。



写真-5 出前授業：地域自然を活用した蝶の観察会

3) 地域の動植物等の調査について

うるま市の沖縄アミークスインターナショナル敷地内に生息するオキナワイボイモリの生態調査を、月に1~2回の頻度で同校の生徒とともに通年にわたって実施し、卵、幼生、成体を確認した（写真-6）。

また、美ら島自然学校のある嘉陽区および安部区での伝統行事調査を行い、地域の伝統文化について記録を取った。



写真-6 調査で確認されたオキナワイボイモリ幼生

3. 成果の公表

「地域の川」をテーマに学習した緑風学園4年生の成果として、観察できた生きものの解説パネルを作成し、美ら島自然学校で展示した（写真-7）。展示物は自然学校への来校者に対して公開、財団と地域の学校連携事業や地域の自然環境について普及することができた。

また、本事業は学習プログラムの開発を兼ねており、今後も各学校等で行った事業の効果や手法の検討を進めていく。



写真-7 緑風学園4年生 川の生きもの解説パネル展示

4. 外部評価委員会コメント

地域伝統行事調査は興味深い。今後どのような調査をして、どこで発表するかに興味がある。イボイモリの調査結果も今後の展開が楽しみである。

（亀崎顧問：岡山理科大学教授）